PRESS RELEASE

INTERMEDIATHEQUE
インターメディアテク
100 7003 東京都千代田区丸の内2-7-2
ＪＰタワー／ＫＩＴＴＥ2-3F
www.intermediatheque.jp

インターメディアテク博物誌シリーズ〈2〉
日本スウェーデン外交関係樹立百五十周年記念特別展示
『ルドベック・リンネ・ツュンベルク――ウプサラ博物学三代の遺産より』のご案内

2018年3月吉日

■本展覧会の特徴

「18世紀の自然史学の偉人たち」

「スウェーデンから世界、そして日本へと受け継がれた学問を辿る」

●日本スウェーデン外交関係樹立百五十周年に際し、スウェーデンの生んだ偉大な自然史学者、ルドベック、リンネ、ツュンベルクにまつわる学術の至宝66点を日本で公開する貴重な機会となります。

●オロフ・ルドベック(父)はウプサラ大学に先進的な学術の基盤を作り上げました。ここに学んだカール・フォン・リンネは現代も用いられる、体系化された学名を提唱しました。リンネの弟子であったカール・ペーテル・ツュンベルクは1775年に来日し、日本の蘭学者たちと交流をもち、のちに「日本植物誌」を記しています。スウェーデンで受け継がれ、日本とも関わりの深い、これら三人の遺産として重要な出版物や挿画を一堂に集めて紹介します。

●ツュンベルクが日本から持ち帰った江戸時代の物品や書簡が里帰りします。同時に小石川植物園に保管されていた、ツュンベルクにまつわる東京大学所蔵の文物も、関連展示としてご覧いただけます。

●本展覧会は、連続展覧会企画「インターメディアテク博物誌シリーズ」の第二弾として、東京大学総合研究博物館とウプサラ大学との国際学術協働により実現しました。本シリーズは、今後もさまざまな国際的な学術機関との協働で展開していく予定です。

■基本情報

名　称	特別展示 インターメディアテク博物誌シリーズ〈2〉 日本スウェーデン外交関係樹立百五十周年記念特別展示 『ルドベック・リンネ・ツュンベルク――ウプサラ博物学三代の遺産より』
会　期	2018 年 4 月 24 日(火)から 8 月 26 日(日)まで
時　間	11：00―18：00(金・土曜日は 20 時まで開館、入館は閉館時間の 30 分前まで) ＊時間は変更する場合があります
休館日	月曜日(月曜日祝日の場合は翌日休館)、その他館が定める日
会　場	インターメディアテク 2 階「GREY CUBE(フォーラム)」+「FIRST SIGHT(ギャラリー 1)」
主　催	東京大学総合研究博物館＋ウプサラ大学博物館「グスタヴィアヌム」
協　力	ウプサラ大学図書館 + ウプサラ大学進化博物館 + スウェーデンリンネ協会・リンネ博物館 + スウェーデン国立世界文化博物館・民族学博物館 + 東京大学大学院理学系研究科附属植物園
後　援	スウェーデン外務省
協　賛	モルタ＝クリスティナ マグヌス・ヴァールクイスト財団 + スカンジナビア・ニッポン ササカワ財団 + 在日スウェーデン大使館 + グリマルディインダストリ株式会社 + グスタフ六世アドルフ国王スウェーデン文化財団 + ラングマン文化財団
入館料	無料
住　所	東京都千代田区丸の内 2-7-2　ＫＩＴＴＥ2・3F
アクセス	JR 東京駅丸の内南口徒歩約 1 分、東京メトロ丸ノ内線東京駅地下道より直結

■関連出版物

●図録『ルドベック・リンネ・ツュンベルク――ウプサラ博物学三代の遺産より』(176 頁)
●カードリーフレット
●ポスター

■主要展示物

1.

オロフ・ルドベック(父)の設計によりフィリップ・ヤーコブ・テロット(父)が製作した日時計(17世紀後半)

ルドベック(父)は広範な知識の持ち主であり、様々な科学技術のプロジェクトに関わっていた。この日時計は、ルドベックとスイスの機器製作者テロットとの協力の一例である。その細部に凝らされた技巧の数々は、このような機材の17世紀における重要性の証である。

2.

『鳥類図鑑』追加図版より「クロヅル」(1693頃–1710年)

オロフ・ルドベック(子)はスウェーデン初の本格的な鳥類学者として鳥類を研究し、原寸大で描くという難行に取り組んだ。その成果が彩色画による『鳥類図鑑』である。

3.

『自然の体系、クラス、目、属および種の表記法』第六版(1748年)

カール・フォン・リンネの主要著作の一つ。リンネは動植物の分類を体系化し、後の第十版では現在も用いられる二名法による学名を提唱した。

4.

『スウェーデンの植物』よりリンネソウの折り込み版画(1745年)

リンネの著した『スウェーデン植物誌』に唯一収められた図像。リンネはこの植物を愛し、自身の名が冠せられた学名「リンネア・ボレアリス」を自らのサイン代わりに用いた。

5.

『日本産植物図譜 1775–1776年』(第一–四巻)より「クマガイソウ」(*Cypripedium japonicum*)(1794–1805年)

リンネの弟子であったカール・ペーター・ツュンベルクは日本滞在中に多数の植物を集め、正式に記載している。これらの知見は『日本植物誌』『日本産植物図譜』などにまとめられた。

6.

長崎で茂伝之進により書かれたツュンベルク宛てオランダ語書簡(1825頃–1830年)

ツュンベルクは来日中、通詞であった茂節右衛門と親交を結んだ。のちに、シーボルトを通じて節右衛門の息子、伝之進から、父の師としてのツュンベルクに対する敬意が伝えられる。それを受けてツュンベルクは伝之進に書簡と書物を送った。このオランダ語で書かれた書簡には、その返信として伝之助からツュンベルクへの謝意が綴られている。

日本スウェーデン外交関係樹立百五十周年記念特別展示

インターメディアテク博物誌シリーズ〈2〉

ルドベック・リンネ・ツュンベルク

ウプサラ博物学三代の遺産より

The Art of Natural Science in Sweden

—Treasures from Uppsala University

1.

© Gustavianum, Uppsala University Museum, Mikael Wallerstedt

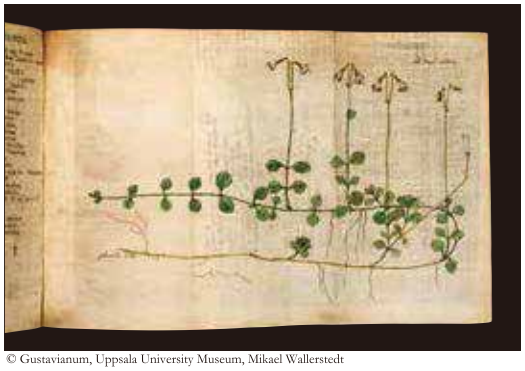
2.

© Uppsala University Library, Magnus Hjalmarsson

3.

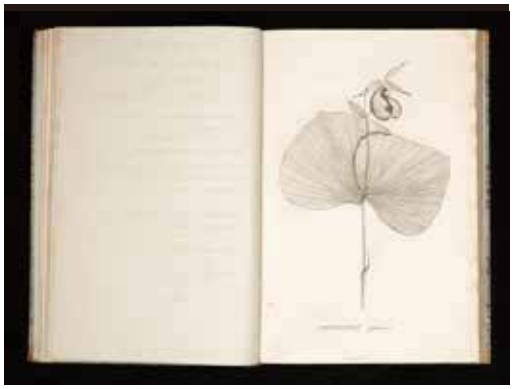
© Gustavianum, Uppsala University Museum, Mikael Wallerstedt

4.



© Gustavianum, Uppsala University Museum, Mikael Wallerstedt

5.



© Uppsala University Library, Magnus Hjalmarsson

6.

© Uppsala University Library, Magnus Hjalmarsson

INTERMEDIATHEQUE